

島根県スケート連盟

—— これまでの歩み

昭和56年3月14日に「島根県スケート連盟設立総会」が開かれて県連盟が設立され、昭和57年冬季国体に向けての選手強化を中心とした事業がスタートした。

当時、国体記念として県立スケート場の建設構想があったが、昭和57年11月に山陰ジャスコが松江市に「アイスパレスジャスコ」をオープンしたため県立施設の建設は見送られ、平成6年3月の施設閉鎖までここを拠点として各種事業を展開していくこととなった。

昭和58年にはアイスホッケーチームも結成され、平成6年度に「島根県アイスホッケー連盟」が設立されるまでの間、スピード、フィギュア、アイスホッケーの3部門により事業を行った。

「アイスパレスジャスコ」においては、昭和57年12月から「日曜スケート教室」を始め、毎回50人前後の受講があり、ここで育った小学生を中心に、「松江スケートクラブ」が組織され、以後、現在に至るまで数多くの選手を輩出し、国体、全国高校総体、全国中学生大会等々数々の選手が出場した。当リンクにおいては、「全山陰選手権大会」、「中四国選手権大会」及び「ジャスコ杯競技会」等を開催し県内外からも多数の選手の参加があった。

平成4年11月には、県内2番目のリンクとして、平田市（現出雲市）に市立宍道湖公園「湖遊館」がオープンした。当リンクは60m×30mのリンクと仮設観客席を有し、アイスショーのほか、「中四国九州ブロックフィギュアスケート選手権大会」の開催などスケート熱の高まりに貢献した。平成6年の松江市のスケート場の閉鎖以降は、県内クラブの練習拠点となり、また、平成10年3月のYSPスケートリンク（鳥取県米子市）の閉鎖以後は「米子クラブ」の活動拠点ともなり、各種教室のほか中四国や全山陰の選手権大会や「湖遊館杯大会」等を開催し、山陰におけるスケート競技・普及の拠点となっている。

平成8年12月には浜田市に「浜田市勤労者福祉セン



令和6年冬季国スポショートトラック 金山和樹選手

ター（サンビレッジ浜田）スケートリンク」がオープンし、江津市、浜田市を中心とした選手（クラブ）の活動拠点となり、教室や「サンビレッジ浜田杯フィギュアスケート大会」の開催など、県西部のスケート競技の拠点となった。

出雲市の「湖遊館」が活動拠点となったことから、平成22年には、活動母体である「松江スケートクラブ」を「湖遊館スケートクラブ」に改称するとともに、「出雲市スケート協会」を設立し、出雲市を中心とした活動の体制を構築した。

—— 現在の状況

令和5年7月現在、スピード部門選手1名、同専門員4人、フィギュア部門選手24人、同専門員11人であり、近年選手人口が減少傾向にある。小・中・高等学校はもとより、大学等にもクラブ、部活動等がなく、社会体育としてのクラブが競技活動の単位となっている。初心者向けの「日曜スケート教室」の受講者は毎年40人程度あるものの、クラブ（競技）への継続がなかなか進まない状況である。

フィギュアについては、平成21年より、「湖遊館」を拠点に活動するプロインストラクターの指導を受けるようになったが、夏季（5～10月）に県内スケート場が閉鎖されるため、週末や夏休みに県外に出かけて練習しなければならない環境にあり、選手によっては、県外の学校へ転進学して競技に打ち込む例も出てきている。

—— これから

競技を行うには、スケート場の存在が不可欠であり、スケート場の維持存続のため、設置者の出雲市や管理運営団体と連携し、一般客も含めた利用者（スケート愛好者）の確保に向け、教室の開催、子ども会活動の指導、一般滑走中のボランティア指導、湖遊館イベントへの協力等を積極的に行っている。これらの活動は、地域の貴重な社会資源であり、子どもたちの居場所、健全育成、家族の交流の場である「湖遊館」を守ることもつながっている。

こうした活動を継続し、スケートの魅力を発信し、愛好者を増やしながら、競技人口の拡大、競技力の向上を図っていく必要があり、年少期（小学校就学前後）からの競技への誘導、年間を通じて、また小中高を通じての指導体制の確保、指導者の確保育成、選手の経済的負担の軽減等に今後とも取り組んでいきたい。